

殿の御規式は、おぼろげならぬ御事なればしるすにおよばず、御對面は時を點じて、亥の二ツ計とどきこえける、女御の御方より御祝の奉りもの、

御さうぞくのぐ 夏冬

御吳服 百

銀子

清涼殿よりつねの御殿へあがりて、御式三獻の後、叡覽に備へ奉らるとぞ、三五の日までとりどりの御ことぶき、あげてかぞふべからず、略下

〔百一錄〕元祿九年十月朔日、有栖川宮幸仁親王、姫君輝宮御方幸為女御、東山可有入内之由議定、

十年二月廿五日、有栖川宮息女輝宮御方、為女御代入内、已刻事了、出車一兩、犢牛駕之、次前驅七輩、扈從五輩計供奉、奉行今城黃門、御車兩牛駕之、

〔百一錄〕享保元年十一月十三日、午刻女御中御入内、近衛前攝政家息女子尙十七歲、扈從廣橋

亞相、廣橋黃門、水無瀬相公、小倉相公四人也、各轅自後令持、前駟十人、日野西辨七條少將、差次藏錦小路也、此外云々、十五日、入内、中諸家中御大刀計獻上于禁裏、女御御方由緒有之輩御肴獻上、

十八日、始入御于女御御方、廿一日、松平出羽守、中條對馬守參内、參院、女御入内御使也、布衣白張素襖十餘輩出羽守召具、近來供奉之不見及珍奇也、三家使者今日勤仕、廿五日、老中國守十萬石以上使者御大刀馬代獻上、但若老中者不獻之、朽木間部等使者參上也、為侍從以上也、廿六日、

上使御暇被仰出、

〔二條家系圖〕吉忠——女子

永姬、諱舍子、享保十八年九月廿八日東宮町櫻為御息所、享保廿年十一月三日為女御、元文元年十一月十五日入内、同五年五月廿七日叙從三位、准后宣下、上卿坊城大納言俊將略